

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立晃宝小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	81人	算数	82人	理科	83人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	77人	算数	77人	理科	78人
------	----	-----	----	-----	----	-----

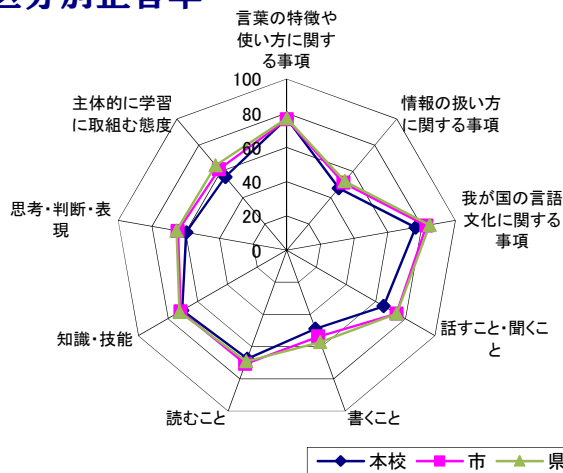
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.9	76.4	77.0
	情報の扱いに関する事項	47.3	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	76.5	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	65.4	74.1	74.2
	書くこと	48.8	53.7	57.2
観点	読むこと	67.5	70.7	69.2
	知識・技能	70.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	59.6	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	55.8	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

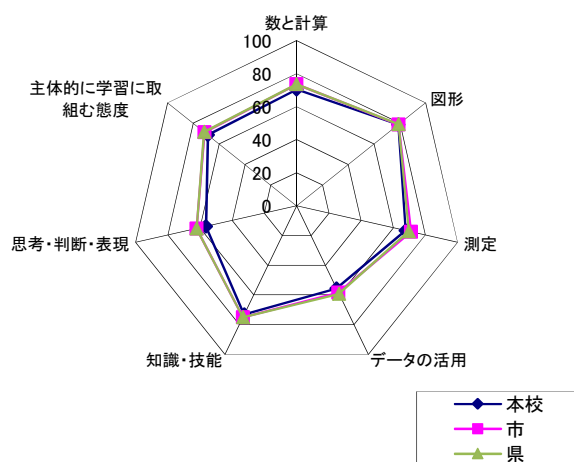
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○3年生で学習した漢字(熟語)を書くことやローマ字を読むことについての設問の平均正答率は、県の平均より高かった。また、3年生で習った送り仮名のある漢字の読みの問題もよくできていた。</p> <p>●同音異義語の問題の平均正答率が低く、課題があった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・新出漢字の読み方や字形に注意させながら、繰り返し練習して漢字を覚えることを、引き続き、朝の学習や家庭学習で取り組ませる。また、文章を書く際には、今までに学習した漢字を意識して使うことを習慣付けられるよう、全ての教科の授業において指導していく。</p> <p>・同音異義語については、漢字の意味を確認しながら使い分けていけるよう、漢字辞典を活用しながら指導していく。また、「漢字辞典の使い方の学習」では、漢字の学習に活用できる力を身に付けさせるよう、丁寧に指導する。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○国語辞典の使い方については、よく理解できていた。</p> <p>●説明文を要約する問題(短答形式)や、メモをもとに文章を書く問題(記述式)の平均正答率が低く、課題があった。</p>	<p>・調べたことを文章にまとめる学習では、いくつかの資料の中から必要な情報が書かれている資料を選ぶことができるよう、「物事を比較・関連付けて考えること」を丁寧に指導していく。</p> <p>・説明文の学習では、文と文の意味のつながりを理解させたり、繰り返し使われている語や中心となる語に着目して小見出しを付けさせたりするなどして内容を整理する活動を今後も丁寧に指導していく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●漢字のへんやつくりの名前を選ぶ問題の平均正答率が県の平均より低く、課題があった。</p>	<p>・漢字の成り立ちや字の意味を理解できるよう、国語の授業や朝の学習、家庭学習の課題等で漢字辞典の活用を年間を通じて指導していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○話し手の工夫を捉える問題の平均正答率は、県の平均とほぼ同じであった。</p> <p>●話し合いの内容を聞き取って、自分の考えとその理由を記述する問題は平均正答率が県の平均より低く、課題があった。</p>	<p>・各教科の授業において、話し手の主張・理由・根拠など、話の中心となることからメモを取ったり、聞き取った話の内容に対して、共通点や相違点を踏まえて自分の考えをまとめる場面を繰り返し設定し、聞く力を高めていけるように指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○自分の考えを明確にして文章を書く問題の平均正答率は、他の問題より高い傾向が見られた。</p> <p>●指定された長さや2段落構成で文章を書くことの問題の平均正答率は県の平均より低く、課題があった。</p>	<p>・指定された段落構成で文章を書くことができるよう、教科書の教材文等を活用し、段落をつくることの意義や目的を確認したり、文章を視写する活動を取り入れたりしながら、段落の「型」を理解させる。また、基本的な構成に沿ってまとまりのある文章を書く技能を身に付けさせることができるよう、一人一人の子どもの実態に応じた支援も丁寧にっていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○物語の内容の読み取りの問題は、よくできていた。</p> <p>●説明文の段落の内容の読み取りや文章の要約に関する設問の平均正答率が、低い傾向があった。</p>	<p>・説明文については、段落や文章のまとまりを意識してそこに何が書かれているかを読み取る学習活動を、今後も十分に時間をかけて指導していく。</p> <p>・国語や総合的な学習の時間等の学習に関連する本を学習室に用意する等、児童が本や図鑑等に親しめるような環境作りに努める。</p>



宇都宮市立晁宝小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.4	73.5	73.6
	図形	78.9	79.0	79.1
	測定	67.8	71.1	69.8
	データの活用	55.7	58.4	59.2
観点	知識・技能	73.1	75.0	75.0
	思考・判断・表現	56.3	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	68.8	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

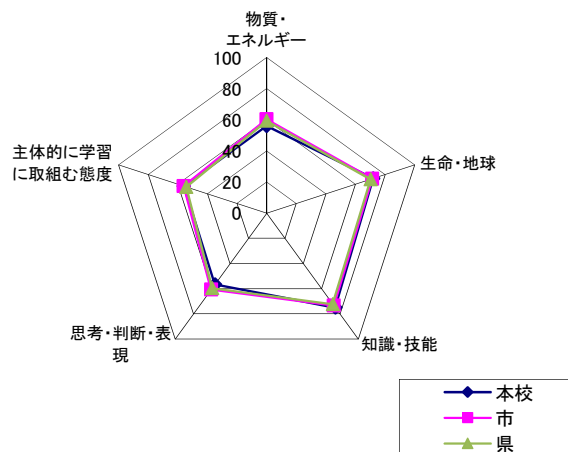
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「分子が1の分数が何個で1になるかを理解している」をねらいとした問題の平均正答率は、89.0%で、県の平均を6.3ポイント上回った。</p> <p>○「小数のしくみや相対的な大きさについて理解している」をねらいとした問題は、よく理解できていた。</p> <p>●「整数－小数第一位の計算」の平均正答率は、県の平均を14.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図を用いて演算決定をしたり計算の仕方を考えたりする活動を充実させ、四則計算の理解を図るようにする。 ・計算の習熟を図るために宮っ子ステップアップシートなどを活用する。 ・課題があった「整数－小数の計算」の筆算については、位をそろえて計算する理由を理解させた後、計算の習熟を図っていくようにする。
図形	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「円の半径から、球が1つ入ったはこの辺の長さをもとめる」問題の平均正答率は、76.8%で、県の平均を3.6ポイント上回った。</p> <p>○「正三角形を作図する」問題の平均正答率は、87.8%で、県の平均と同じであった。</p> <p>●「円の半径について理解する」をねらいとした問題の平均正答率は、県の平均を4.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を操作する活動を取り入れたり視覚支援教材を使用したりして、図形の見方や感覚を豊かにしていくことで、図形の性質や構成要素についての理解を図れるように指導の工夫を行う。
測定	<p>平均正答率は、市の平均より低かった。</p> <p>○「はかりの目盛りを読み取って、果物の重さを求めること」の平均正答率は、67.1%で、県の平均を9.3ポイント上回った。</p> <p>●「道のりの意味を理解すること」の平均正答率は、81.7%で、県の平均を6.4%下回った。</p> <p>●「単位の前にkがつくと、元の単位の1000倍になることを説明すること」の平均正答率は、45.1%で、県の平均を9.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・量の単位や測定の学習については、児童にとってイメージしやすい身近なものに置き換えて学習する場面も入れるなどの工夫をし、基礎的・基本的な学習内容を理解させていく。 ・例えば、長さ、かさ、重さの単位について整理した表から共通する関係について、図や文章でまとめたりして考察し、単位についての理解をさせるような学習活動を今後も十分に行っていく。
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低かった。</p> <p>○「複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取ること」の平均正答率は、55.7%で、県の平均より2ポイント上回っている。</p> <p>●「棒グラフを正しく読み取る」ことに、課題があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じグラフを異なる目盛りの付け方で表した複数のグラフを比較する活動なども取り入れたりしながら、棒グラフを正しく読み取ることができるように指導する。 ・自分の考えを分かりやすくまとめることができた児童の発表を聞き合ったり、お互いの考えのよさを認め合ったりする場面をもちながら、児童が自分の思考の根拠を適切な言葉で記述できるよう指導していく。

宇都宮市立晁宝小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.0	60.2	59.2
	生命・地球	71.9	71.3	70.3
観点	知識・技能	75.0	73.4	72.3
	思考・判断・表現	56.5	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	55.9	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より低かった。</p> <p>○電気を通す物と通さない物を選ぶ問題の平均正答率は、9割を超えていた。また、光を重ねた部分の明るさと温度の様子の問題や風の速さと車の動く距離の関係を考える問題の平均正答率は、いずれも8割を超えていた。</p> <p>●「光のせいしつ」の短答問題や「物の重さ」の記述問題の平均正答率は、県の平均より低く、課題があった。</p>	<p>・科学的な言葉の理解や定着することができるよう、予想や考察などの場面において、科学的な言葉を正しく表現できていない児童の発言に対して、教師が言い直したり、問い返しをしたより適切な表現を改善させたりするなど、授業の中で丁寧に指導していく。また、実験方法を考えさせる話し合い活動を充実させ、予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力を育む。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高かった。</p> <p>○こん虫の育ち方やこん虫のからだのつくりの選択問題の平均正答率は、県の平均より高かった。</p> <p>●植物の子葉の様子や植物の観察記録カードの読み取りの問題の平均正答率は、県の平均より低く、課題があった。</p>	<p>・今後も実際に野外観察を行うなど、体験を伴った学習指導を充実させる。また、観察の際は、直接観察することに加え、細かい部分を拡大して生物の特徴を図や絵で記録したり、気付いたことを説明したりする活動を丁寧に繰り返していく。</p>

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は9割を超えており、学習の重要性を理解している児童が多い。また、家で、「学校の授業の復習をしている。」「テストでまちがえた問題について勉強をしている。」「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と回答した児童は、いずれも県や市の平均を上回っており、自主学習が定着しつつあると考えられる。こういった気持ちを大切に、さらに学力の向上を目指して指導していきたい。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合は96.4%で、自分の将来の生活に今学んでいることが大切だと理解している児童が多い。だが、授業内容の理解や教科に対する好き嫌いの個人差が大きいと言える。今後は、今以上に、分かる楽しい授業づくりに力を入れて取り組んでいきたい。

○「自分はクラスの中の役に立っていると思う。」と回答した児童の割合は、県や市の平均を超えており、学校生活の中で、一人一人が自分の持っている力を生かし認めてもらっていると実感していると考えられる。今後も、児童の自己有用感をさらに高められるような設定や支援を心掛けていきたい。

○「毎日朝食を食べている。」と回答した児童の割合は94.1%で、9割を超えており、給食指導、食育だよりや保健だより等での家庭への啓蒙活動の成果が表れており、家庭での生活習慣がしっかりしていることがうかがえる。今後も、食育に関する指導や啓蒙活動を継続していきたい。

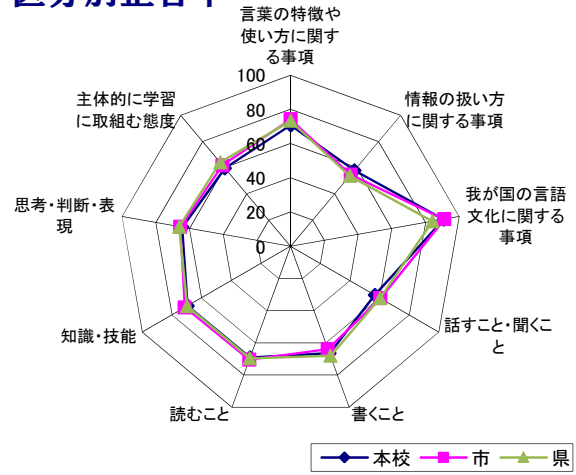
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問に対して、「いいえ」「どちらかといえばいいえ」と答えた児童が54.1%おり、自分の考えを表現することへの苦手意識が強い児童が多い。授業では、自信をもって意見を発表できるように前もって十分に考える時間を作り、話し合い活動や発表の機会を増やして言語表現に慣れさせたい。

●「1か月に11さつ以上本を読む。」と回答した児童の割合は、18.8%で、県や市の平均を10ポイント以上下回った。朝の読書の時間や図書館便り、読書月間などを活用したり、学習室に学習に関連する本を置いて本や図鑑に親しめる環境作りを行ったりする等、児童の読書への興味、関心を高めていきたい。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.8	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	57.9	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	90.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	56.8	60.6	60.4
	書くこと	66.4	63.8	68.0
観点	読むこと	69.1	70.4	69.6
	知識・技能	69.5	71.3	69.9
	思考・判断・表現	64.3	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	59.7	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

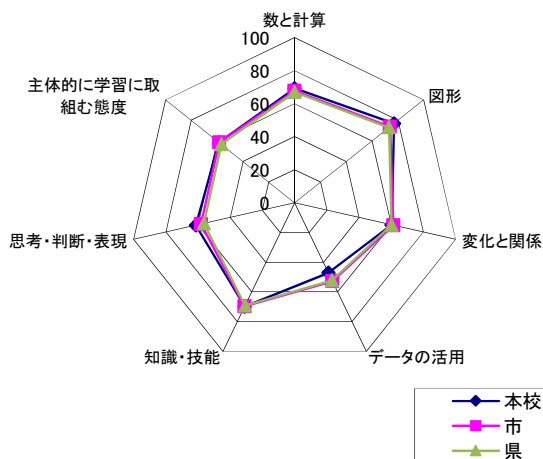
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○「性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている」をねらいとした問題の平均正答率は、96.1パーセントで県の平均を5.6ポイント上回った。 ●第4学年の配当漢字の正答率がすべての漢字で県の平均を下回り、「健康」という熟語に関しては、平均正答率は39.5パーセントで県の平均を21ポイント下回った。既習漢字の定着が課題と思われる。	・AIDリルの活用や、教科書の意味調べなどを通して、日常的に漢字に関心をもたせることで言語への理解を深められるよう指導する。 ・漢字ドリルや漢字ミニテストを計画的に行うことで、当該学年の漢字の定着が図れるようにする。
情報の扱い方に関する事項	○「漢字辞典の使い方を理解している」をねらいとした問題の平均正答率は、85.5パーセントで県の平均正答率を10.5ポイント上回った。 ●「情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している」をねらいとした問題の平均正答率は、39.5パーセントと県の平均を5.4ポイント下回った。説明文を正しく読み取り、説明することに課題が見られる。	・題材の導入の際に、辞書を活用し意味調べを行っていることに効果があると考えられるため、引き続き活用していく。 ・自分の考えを書く際に、理由や事例を取り入れながら説明させるような演習を取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○「ことわざの意味を知り、正しく使っている」をねらいとした問題の平均正答率は、90.84パーセントと市の平均とほぼ同じであり、県の平均を6.6ポイント上回った。	・自主学习やAIDリルで「ことわざ」や「慣用語」に触れる機会を取り入れることで、さらに定着を図れるようにする。
話すこと・聞くこと	○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」をねらいとした問題の平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉えている」を狙いとした問題では、5.4ポイント、「司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめている」をねらいとした問題では、8ポイント県の平均を下回っており、話を聞きながら、中心を捉えたり、大切なことをまとめたりすることに課題が見られる。	・小集団や班別活動において話し合い活動を積極的に取り入れ、相手の意見を理解し聞き取り、メモに残したり、自分の考えを相手に伝えたりする活動を通して、話の要点を押さえて聞く力を養う。
書くこと	○「アンケートの結果から読み取ったことを書く」をねらいとした問題の平均正答率は73.7パーセントと県の平均を5ポイント上回っており、グラフを見て分かったことを書くなどの学習活動が成果をあげている。 ●「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書いている」をねらいとした問題の平均正答率は、64.5パーセントで、県の平均を8.4ポイント下回っており、自分の考えを書くという活動に課題があると考えられる。	・指定された条件を必ず入れて文章を書くことができるように、朝の学習の時間を活用して短文づくりの演習を繰り返す。
読むこと	○「情報と情報の関係について理解し、段落相互の関係を捉えている」をねらいとした問題の平均正答率は、48.7パーセントで県の平均を7.1ポイント上回った。 ●「文章を読んで感じたことや考えたことを共有している」をねらいとした問題の平均正答率は、57.9パーセントで県の平均を8ポイント下回った。	・文章構成を考えながら「要旨」にたどり着くことができるように、事実と意見を区別しながら順を追って丁寧に読み取る活動を続けることで、読み取りの力をつけるようにする。 ・社会科の学習を通して、図や表、写真やグラフなどの情報の多様な読み方を学ぶ機会を多く取り入れることで、読み取る力をつけるようにする。



宇都宮市立晁宝小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.3	67.8	67.0
	図形	77.1	73.9	73.1
	変化と関係	60.2	61.4	60.2
	データの活用	47.1	52.7	52.1
観点	知識・技能	69.8	69.7	69.2
	思考・判断・表現	61.4	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	58.6	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

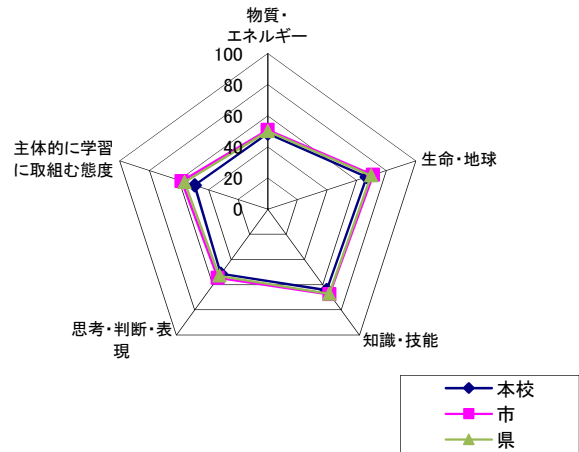
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より高かった。</p> <p>○「整数、仮分数、帯分数、真分数の大小の比較をしている」ことでの平均正答率は、県の平均を18ポイント上回った。</p> <p>○「帯分数÷帯分数＝帯分数(繰り上がりあり)の同分母分数の計算ができる。」ことでの平均正答率は、県の平均を5.7ポイント上回った。</p> <p>●「$3\text{けた} \div 2\text{けた} = 2\text{けた}$(余りあり)の計算ができる。」ことでの平均正答率は、県の平均を5.3ポイント下回った。</p>	<p>・課題があった$3\text{けた} \div 2\text{けた}$のあまりのあるわり算の計算の習熟を図るために、宮っ子ステップアップシートやジャストスマイルなどを活用する。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より高かった。</p> <p>○「直方体のある変に平行な辺を理解している」ことでの平均正答率は、県の平均を12.1ポイント上回った。</p> <p>○「180°より大きい角の大きさを求めている」ことでの平均正答率は、県の平均を8.7ポイント上回っている。</p> <p>●「身近にあるもののおよその面積を理解している」ことに、課題があった。</p>	<p>・図形を作図する際には、どの性質を使って作図するのかを理解させ、図形の性質を確認しながら描かせるようにする。また、朝の学習の時間を活用したり、自主学習による練習を取り入れたりすることで、基礎的な図形の描き方の定着を図る。</p> <p>・面積について豊かな感覚を培うことができるよう、児童の身の回りにある折り紙や教科書、教室や体育館の面積を実際に調べるなどの活動を授業の中で取り入れていくようにする。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、県の平均と同じであった。</p> <p>○「基準量と比較量を求めた割合を比較して、どちらの包帯がよくのびるのかを説明している」ことは、県の平均を3.4ポイント上回った。</p> <p>●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができる」ことは、県の平均より4.4ポイント下回っている。</p>	<p>・数量の関係を式にする問題では、数直線を用いた指導を大切に行い、十分に理解が図れるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均より低かった。</p> <p>○「折れ線グラフを読み取ることができる」ことでの平均正答率は、県の平均よりも2.5ポイント上回った。</p> <p>●「折れ線グラフと棒グラフを読み取ることができること」や「読み取ったことを根拠に理由を説明すること」に、課題があった。</p>	<p>・複数系列のグラフや組み合わせたグラフの特徴を読み取れるよう、それぞれの縦軸のデータの表している数値の意味について再度指導を行い復習する機会を設定し、定着を図るようにする。</p>

宇都宮市立晃宝小学校第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	48.6	50.8	50.0
	生命・地球	66.8	71.1	69.8
観点	知識・技能	64.3	67.6	67.2
	思考・判断・表現	51.3	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	49.4	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「乾電池の向きにより電流の向きが変わること」は24.7%で、県の平均を8.1ポイント上回った。</p> <p>○「直列つなぎと並列つなぎにしたときの検流計の針のふれ方を推測すること」は57.1%で、県の平均を11.8ポイント上回った。</p> <p>○「空気や水の体積の実験結果の正しい説明を選ぶこと」は89.6%で、県の平均を7.8ポイント上回った。</p> <p>●「直列つなぎの理解」は57.1%で、県の平均を7.5ポイント下回った。</p> <p>●「水のすがたの理解」は50.6%で、県の平均を18.7ポイント下回った。</p> <p>●「容器に水を入れたまま凍らせると容器が壊れることがある理由の説明」は42.9%で、県の平均を7.1ポイント下回った。</p> <p>●「金属のあたたまり方の実験結果を推測すること」は、49.4%で、県の平均を8.3ポイント下回った。</p> <p>●「水のすがた」及び「物のあたたまり方」の記述問題における無回答率がそれぞれ18.2%、20.8%で、全問中最高だった。</p>	<p>・実験など具体的な操作を通し、実感を伴って理解できるように指導することで定着を図っていく。</p> <p>・学んで得た知識・技能を身近な場面や生活に結び付けて考え、自分の思考やその根拠を適切な言葉で表現し、記述できるように指導していく。</p> <p>・「直列つなぎの理解」については、4年生で学習する際、直列つなぎとへい列つなぎのちがいがはっきりと確認できるように記録用紙を工夫する。</p> <p>・「水のすがたの理解」及び「金属のあたたまり方の実験結果を推測すること」については、児童が設問の意味を正しく理解できていないことが予想されるので、学習する際には正しい結果が出る実験を行うだけでなく、児童が実験に対して疑問を持てるような工夫を取り入れていく。</p>
生命・地球	<p>○「ヘチマの変化の様子」は94.8%で、県の平均を6.2ポイント上回った。</p> <p>○「屋外での気温の測り方」は93.5%で、県の平均を5.3ポイント上回った。</p> <p>●「オオカマキリの季節ごとのようす」は51.9%で、県の平均を7ポイント下回った。</p> <p>●「1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、理由を説明すること」は40.3%で、県の平均を13.4ポイント下回った。</p> <p>●「水たまりの水がなくなる理由を指摘すること」は71.4%で、県の平均を9.9ポイント下回った。</p> <p>●「結露現象の理解」は66.2%で、県の平均を9.8ポイント下回った。</p> <p>●「方位磁針の正しい使い方」は、逆転解答が51.9%で、正答率を18.1ポイント上回った。</p>	<p>・実際に植物や昆虫などを育て観察する体験を通して、実感を伴って理解できるように指導することで定着を図っていく。</p> <p>・器具の適切な使用の仕方について振り返る機会を設け、定着を図っていく。</p> <p>・自分の思考の根拠を適切な言葉で表現し、記述できるように指導していく。</p> <p>・「1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、理由を説明すること」については、児童がグラフを正しく読み取れていないことが予想されるので、算数の授業で折れ線グラフを学習する際に合わせて、資料を正しく読み取る力を養っていく。</p>

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は93.7%、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合は75.9%と、県の平均と比べて学習の重要性を理解している児童が多い。今後も、自主学習の充実を図ったり、学習内容と普段の生活を結びつける支援を行ったりして、学習の意欲を高めることで、学習の定着や学力の向上を目指していきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段一日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか。」では、「10分以上30分より少ない」と答えた児童の割合が、市や県の平均よりも高かった。また、「一か月に、何冊くらい本を読みますか。」では、「3冊～4冊」「5冊から10冊」と答えた児童の割合が多く、市や県の割合を上回っている。今後も学校図書館の積極的な活用や家庭での読書を推進し、読書の楽しさや有益さを味わわせるとともに、文章読解力の向上にもつなげていけるよう支援を進めていきたい。

○「授業を集中して受けている」児童は93.6%と多く、学習に前向きに取り組んでいる様子が見える。今後も、児童が意欲をもてるような学習展開の工夫や学習形態の工夫を行うことで、さらに意欲を高めていきたい。

○「毎日朝食を食べている。」と回答した児童の割合は81.6%で、8割を超えており、給食指導、食育だよりや保健だより等での家庭への啓蒙活動の成果が表れている。今後も、食育に関する指導や啓蒙活動を継続していきたい。

●「自分には、よいところがあると思う。」と回答した児童は74.6%で、県平均と比べて-2.3ポイントと低く、自己肯定感の低さが見られた。係活動や委員会活動などを通して、役割の大切さや仕事への満足感を実感させることを通して、自己肯定感を高めていきたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっていると思う。」と回答した児童の割合は45.6%で、県平均と比べて-12.6ポイントと、県平均を下回っており、自分の考えを表現することへの苦手意識が強い児童が多い。授業では、自信をもって意見を発表できるように意見を前もって十分に考える時間を作り、話し合い活動や発表の機会を増やして言語表現に慣れさせたい。

宇都宮市立晃宝小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○基本的な学習習慣の定着のための指導の徹底 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の実践に関する研究 ○基礎・基本の定着	○学習用具の確実な準備や学習のきまり、発表の仕方、話を聞く態度などの学習態度や学習技能を育てる指導を学校全体で行っている。 ○主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の改善を学校全体で行っている。 ○単元のプレテストやまとめテストで児童一人一人の実態を把握し、個に応じた支援を行っている。	○「授業を集中して受けている」という質問の肯定的回答率は、4年生で95.3%、5年生で93.6%であった。 ○「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている。」という質問の肯定的回答率は、4年生で74.1%、5年生で70.8%であった。 ○各教科の標準スコアは、4年：国48.4、算48.7、理49.7、5年：国49.3、算50.7、理48.9であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○基礎・基本の定着	○基礎・基本の定着を目指した学習指導の工夫と家庭学習の習慣化	○学年でパワーアップシートや宮っ子ステップアップシート、ジョアストスマイルドイル等を授業や朝の学習、家庭学習で活用していく。 ○習熟度別学習やT・Tによる指導、かがやきルーム等の個に応じた支援を充実させる。